



## 進めよう 「多文化共生」社会



日本の総人口は、平成16年をピークにして減少局面に入り、今後は急激な人口減少の進展が見込まれています。

その一方で、政府による難民や留学生の受入れ、「出入国管理及び難民認定法（入国管理法）」改正による日系南米人の来日促進、またアジアを中心とする研修生の受入れ拡大などにより、外国人住民人口は年々増加し、定住化が進んでいます。

こうした中、社会の活力を維持するためには、外国人も含めた全ての人が能力を最大限に発揮できる社会づくりが不可欠であることから、地域において「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的なちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」いわゆる多文化共生の推進が必要になってきます。

そのための具体的な取組については、言葉によるコミュニケーションが図れない外国人に対する「コミュニケーション支援」

や、外国人住民が地域で安心して生活を送ることができるよう、生活上の様々な課題に関して解決を図るための総合的な「生活支援」があります。こうした「コミュニケーション支援」や「生活支援」を円滑に展開するためには、地域住民の多文化共生に関する理解が重要なこととなるため、多文化共生社会に向けた地域づくりを進める必要があります。

### カープで活躍！外国人選手

昨年、シーズン3連覇を果たした広島カープ。そこには「助っ人」と呼ばれる外国人選手の活躍が要因のひとつとしてあったと思います。

なぜ最近のカープの外国人選手は活躍するのか、ここまで示した多文化共生に置き換えて考えてみましょう。

カープでは外国人選手とその家族が、異国の地に来て不安を持つことを理解し、その不安を取り除けるように、家族を中心にケアをする専門の担当部署があります。

その担当部署には英語などが話せる担当者を配置し（コミュニケーション支援）、その担当者が選手やその家族の生活上の困ったことなどに対応するシステム（生活支援）を機能させることにより、選手が安定した精神状態を維持することができ、また、外国人選手の日本の野球を積極的に理

解しようとする姿勢（相互理解）も相まって、ベストな能力を発揮し、好成績を残していると言われています。

こんなところにも多文化共生の推進へのヒントが隠されているのかもしれない。

本市の外国人住民の状況は、市制施行時の昭和38年には105人（外国人登録者数）でしたが、帰化などにより年々減少しました。

その後平成に入り、外国人労働者の増加によって平成19年には248人とピークを迎え、一旦は減少しますが今はまた増加傾向にあります。

今後は昨年11月の入国管理法の改正に伴い、更に増えることが見込まれます。

本市に住む外国人が住みよさを感じ、地域社会で安心して暮らし続けてもらうには、カープが外国人選手に対するように、コミュニケーションを深め、相互に理解し合い、生活上の支援を行うことが重要です。

### 問い合わせ

企画政策課秘書企画係

☎ 22-0942

